

会議・協議等記録簿（要旨）

企画課 企画調整係

議 題	第2回野沢地区のまちづくりの構想策定に係る有識者会議		
日 時	令和元年9月20日（金） 午前 10:30～	場 所	市役所7階 701会議室
出席者	小林直人委員、荻原泰昭委員、森角和士委員、伊藤康弘委員、白田行孝委員、小林勉委員、北澤潔委員、堀内ふき委員、中沢文子委員、下平匡克委員 都市計画課：東出 企 画 部：佐藤部長、若林課長、木下係長、大井（麻）、中村		

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議事

議事内容まとめ	
事務局	(1) 有識者会議で出された意見について説明【資料1】
座長	事務局から説明がありましたが、まちづくりのための視点への追加・修正事項等、ご質問やご意見等ありますでしょうか。
委員	<p>P6にある視点の「公共が適切に関わる視点」とあるが、行政が受身的でなく、良い視点であると思う。また、これに加え、民間側がやるべき視点というものもあるかと思うので、加える必要がある。</p> <p>さらに、地域をゾーニングすることで、住む場所などといった目的ごとに、地域内の機能を集約化できると良い。</p> <p>また、歴史的な背景に基づき現在のまちが形成されているが、時代と共に新たに形成されていく部分もある。このことから、将来を見据えた公共の関わり方も必要になると思われる。例えば、野沢地域の千曲川沿いにサイクリングロードがあり廃れてしまったが、今の時代であればニーズがあると思われる。</p>
事務局	ご意見いただいたように、公共と民間が適切に役割分担することが必要になると考えられる。公共の部分に焦点を当てることで民間の活動を制限しないよう、それぞれの役割を踏まえる形で書き方を修正させていただく。
委員	サイクリングロードについては、県でも推進への動きが出ている。地域の皆さんの間で合意形成が図られれば、県からも協力が得られると考えている。

委員	<p>自転車に乗らない人には分かりづらい事かもしれないが、市内では自転車で走りづらい面がある。松本市などは歩道・自転車道・車道が完全に色分けされていて、歩道に自転車が入らないようになっている。将来の若い世代や子育て世代を呼び込むためにはこのようなポイントからの検討は必要。</p>
委員	<p>自転車の乗りやすい社会は重要と思う反面、佐久市は車社会であることから、自転車が発達することで車にとって走りにくいという、不自由な一面が表面化してしまうことも考えられる。</p>
座長	<p>自転車道の整備となれば、拡幅等の話も出てくるかと思う。自転車通学の高校生が歩道を走行することもあり、双方の安全確保のためにも通行レーンを分けた方がいいと思うが、今回は構想の策定でもあるので、具体的な話については構想策定後の取組の中で進めてもらいたい。</p>
座長	<p>公園について、若い親御さんが気軽に子供を遊ばせられる場所であり野沢地区には城山公園と中島公園がある。そのうち中島公園については、入口が分かりづらく、また、中心地から外れているため、新たに地域に移り住んできた方などにとって利用がしにくい状況でないかと考える。このため、まちの中心にある県民運動広場を上手く使い、公園のように人々が交流できる場所として活用できれば良いと思う。</p>
委員	<p>子ども達が安心して暮らせるという面では、地域内の見守りが必要と考える。これには、地域の高齢者世代が積極的に携わってもらえると良い。</p> <p>野沢会館に対する期待感は大きいですが、活用については今までと違う発想を持って進めないと特徴を十分に生かせない可能性がある。</p>
委員	<p>先日の新聞に市内の高齢化率について掲載があった。野沢の十二町については高い順から8番目で54.9%であった。これから、まちの中心部の高齢化が進んでいることが言えるが、将来的には更に増えることが予想される。</p> <p>まちというものを考えたとき、やはり商店街は、高齢者を含めた地域住民が訪れやすいまちの中心にあることが必要である。それが無ければまちではなく住宅地であり、ドーナツ化が助長される傾向もある。</p> <p>一方で、前回の意見の中で住宅地の話が出ているが、新たな宅地造成は、中心から離れた地域にされる傾向にある。</p> <p>これらのことから、今後は増加する高齢者人口の対応について考えていかなければならないが、そのための商店街の再生についても行政からの関わりをお願いしたい。</p>
座長	<p>時代の変化の中で高齢化の対応については難しい面もあるが、意見の一つとして今後の検討をいただきたい。</p>
委員	<p>P8に野沢会館をシンボリックな場所としたいとの意見が出されているが、具体的なイメージがしにくく感じる。野沢地区の持っている資源を考えると、小中高校が近い距離にあり、文教的な要素が整った地区である。単なる住むまちだけではなく、暮らしやすく文化的な面から選ばれるまちとなれば、野沢会館がそのシンボリック存在になれると思う。</p>

座長	野沢地区においては、保育園や学校などの施設が適当な距離にあり、スーパーなどの生活に必要な施設もある。このことから、野沢地区は住みやすい地域であり、新たな住宅の需要があると考えられる。そういった点も踏まえながらまちづくりを考えていただきたい。
委員	野沢地区のまちづくりを考えるうえでは、そこに住む人が暮らしやすいということに焦点を当てるのか、地域外から人を呼び込むことに焦点を当てるのかという考え方ができる。更に高齢化や人口減少についても考える必要がある。 野沢地区ではびんころの推進委員会ができ、活性化のための検討を進めている。そのような中で、例えば、使われていない土地を市で買い上げるなどの方法も検討してもらえると良いかと思う。
座長	商店街の活性化については、例えば空き店舗を利用したミニ図書館など、うまくマッチした活用ができれば良い。
委員	学び・子育てという面から考えると、野沢のまちにおいて学びの場が保障されている、安心して子育てができる、学校がコンパクトにまとまっている、野沢会館に各種施設があるということがある。例えば県民グラウンドの場所に、多様な子ども達に対応し、多様な子育てのニーズに対応した施設等がコンパクトに入ってくることで、安心して子育てができる場になると考えられる。さらに、地域の高齢者が外に出てきて、子ども達と一緒に学べる場などがあると良い。そういった意味での学びが充実したまちづくりにつながると良い。
委員	最近では学校や仕事場でも家庭でもない第3の場所である「サードプレイス」という考え方がある。地域の人に開かれた場所で色々な人と交流が持てることで住んでいる人の幸福につながってくるものである。野沢会館はこの役割を果たせると思われる。
座長	佐久市は小学校単位で児童館があり、かなり利用されている。そこで高齢者が子供たち向けにしめ縄教室をするなど、交流の機会が持てる则と良い。地域単位では子供たちが敬老会を訪れ歌を発表するような交流はしているが、児童館などを活用したものも考えられると良い。
委員	野沢地区が文教地域であるという考え方に共感した。野沢会館がシンボルであるという話が出ていたが、これは機能的な面だけでなく、地域に対するプライドを生むものでもある。例えば旧中込学校や大沢小学校などその地域の人たちがプライドをかけて作った建築物であり、地域で誇れるものである。
委員	先ほど自転車の話があったが、松本の場合自転車道が分かれてはいるが、大きな事故も多い。専用道路がある分自転車がスピードを出し、横から出てきた車にぶつかるようである。このように、一見すると利便性が上がり安全に見える一方で、危険性が上がることもあり、色々な要素を考える必要がある。 他市の商店街と高校生の関係などでは、空き店舗になった場所に学生がアイデアを出し、催しをやったり、学生が立ち寄れる場所を作ったりしている。子どもたちがいるだけで、まちに明るいイメージ・雰囲気ができ、エネルギーをもらうことができる。 まちづくりミーティングでは多世代交流と同世代交流との考え方があったが、子ども達がやるには、多世代だけを目的にするとうまくいかない。同世代の交流

	<p>が確保された場所があればそこに若者が集まり、それに付随する形で、その他の世代が集まれる場所を設ける方が良い。</p> <p>また、計画段階から子ども達や地域の人たちが関わるものの方がうまくいくと思う。</p>
委員	<p>佐久市では高校再編の話題が出ているが、交通の便等の理由から上田に行ってしまう生徒もいる。もし、北高や南校が地域外に移ってしまったら、野沢のまちの姿は、とても変わると思われる。このことから施設に依存しなくても住みやすいまちということも考えていかなければいけない。</p>
座長	<p>野沢地区の人口も18,000人弱を維持しているとのこと。時代の流れとして高校再編の話もあるが、野沢地区や文教地区という面から、暮らしやすさや住みやすさを追求した、作り込みが必要と感じる。</p>
座長	<p>他にはないでしょうか。</p> <p>次に「(2) 野沢地区のまちづくりの構想のフレームについて」、ご意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>野沢地区における人口動態とあるが、行政区ごとの人口動態や平均年齢などが出せるか。</p>
事務局	<p>他地区との比較や細かい行政区ごとの集計は可能。</p>
委員	<p>国勢調査時点の人口だけでなく、将来推計を入れた方が良い。また、65歳以上の高齢者人口だけでなく、70代や80代といった区分けなどもあったほうが、施策を考えるうえでは必要。今後は高齢者に対するケアのような施策だけでなく、元気な高齢者の力を借りる施策も必要となる。</p>
委員	<p>佐久市の男性の平均健康寿命は70歳と以前に聞いたが、今はどうなっているか。</p>
委員	<p>要介護にならないこと等を基準とした国の集計方法に寄らなければ、さらに高い寿命である。</p>
座長	<p>団塊の世代は現在70代程になっている。区長を選出する場合でも、60代であれば、まだ働いている場合がある。そのような中で、地域に出て活動を促せば、更に寿命は延びていくと思われる。</p>
委員	<p>皆様のご意見を聞く中では、やはり佐久市のキーワードは健康や医療の充実などがあるかと思う。野沢地区でもそのような所を取り上げた施策ができれば良い。健康長寿の象徴であるびんころ地蔵を含め観光誘致を行い、更に住みやすいまちづくりへとつながりができれば、市外に対してもPRになると思う。</p> <p>また、このようなことを考えるうえでは、経済合理性の面から、資金の算段は必要である。</p> <p>さらに、先ほど挙げられたバスの面で言うと、免許の返納が進まない理由とバスに乗らない理由が相互に原因となっている。このための施策を進めることで返</p>

	納が進み、更に健康で暮らせるとなれば、県内でも良いPRになる。
委員	先ほどの人口のデータの話であるが、野村総研のようなシンクタンクのデータを入れられると良い。それがあれば、若者を何人・何世帯呼び戻すという数値目標が立てられる。
事務局	市としても、「人口ビジョン」の策定を進めているところであり、そこで、地域ごとの人口推計も行っている。ただし、出生率のように地域ごとに推計ができないものもあるため、そのようなものについては、市全体での推計で示させていただく。
委員	空き家の戸数が分かれば入れていただきたい。
委員	佐久市は健康という面に特化しているが、近年では人間の生きる目的が健康であることのようにになっている風潮がある。それだけでなく、安心・安全、暮らしやすさ、教育、環境などのキーワードを入れることが必要ではないかと考える。
座長	野沢地区とするとどこまでの範囲を考えていくか。
事務局	大きな括りとしては、野沢地域全体を考えたものである。しかし、市のまちづくりの方向性としては、立地適正化計画等において中心拠点の質を高め、ゆるやかに人口を集めていくコンパクトなまちづくりを目指している。当然、周辺地域の生活機能については担保していくものであるが、まちの機能が集まったエリアに緩やかに人が集まれるようにしたいという考えがある。このため、野沢会館を中心としたエリアでのまちづくりを考えることを想定している。
座長	住宅地が農村部に拡散している状況がある。昔に比べれば住宅地が増えている状況だが、どこまでのエリアまで住宅地を広げていくかということ等を考えることも重要。
事務局	具体的には都市計画上の用途地域内で考えているものである。 野沢会館を中心としたエリアということを構想内で示していく。
委員	佐久市全体の事ではあるが、健康長寿ということだけでは高齢者のまちなようになってしまう。若い世代に対する事も考えた場合、グルメやスポーツ等も入れていければ良い。
	以上

8 その他

次回は10月下旬頃を予定

詳細は後日改めて調整させていただく。

9 閉会

